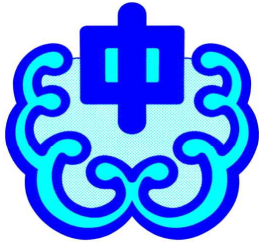


浪江中だより

平成30年度 第27号

2018. 11. 27

文責 校長 嶋原 俊洋



教育目標

- 自ら探求的に学ぶ生徒
- 礼儀正しく、節度ある生活をする生徒
- 健康で、安全な生活をする生徒
- ◇ 自分に自信を持ち、行動できる生徒（今年度重点目標）



伝統行事に新たな意義を思う —復興なみえ町十日市祭—

11月24日（土）・25日（日）に「復興なみえ町十日市祭」が開催され、本校生徒4名もステージ発表を行いました。この祭りは、そもそも収穫を終えた人々が豊年を祝い、冬に向けて生活用品を整えるための市として始まったものです。十日市の三日間は、中心である新町通りは完全な歩行者天国となり、およそ300店ほどの露天が軒を連ね、町内ばかりでなく周りの市町村からの人出で身動きができないほど賑わいを見せていたそうです。145



ハンドベルとリコーダーの演奏

年の歴史をもつ浪江町最大の行事で、町民の熱い思いが込められた祭です。当日は好天に恵まれ、たくさんの人で賑わっていました。生徒は、秋桜祭でも披露したハンドベルとリコーダーを演奏し、教職員と一緒に「未来の光へ」を合唱しました。その後、浪江小・



小学生との和太鼓演奏

津島小の小学生3名と和太鼓を演奏し、会場の皆さんから温かい大きな拍手をいただきました。何かその拍手には、**子どもたちに浪江町の未来をたくす願い**が込められているように感じました。

伝統行事を通して、離れていた人々が久しぶりに再会し、手を取り合って喜んでいる姿が会場のあちこちで見られました。遠く離れていても、浪江を思う気持ちは同じであることを確かめ合う貴重な場であるのだと思いました。私の個人的な感想ですが、この十日市祭は、震災・原発事故を経て新たな意義をもつものになったのではないかと思います。それは、**再会を喜ぶ場であり、故郷に思いをはせ思い出を語る場であり、そしてこれからの未来を語る場という、「人々の心をつなぎ、ふるさと再生の行事」**であるという意義です。十日市祭が、これからの浪江町復興に向けた活力の源であり続けることを心より祈念いたします。